

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2598 号

Risk factors for infertility treatment-associated harassment among working women: a Japan-Female Employment and Mental health in assisted reproductive technology (J-FEMA) study

日本人女性における、職場での不妊治療関連のハラスメントのリスクファクター： J-FEMA スタディ

植田 結人（うえだ ゆいと）

博士（医学）

論文内容の要旨

日本国内の出生数は、過去 50 年間でおよそ半減しており、著しいスピードで減少している。女性の社会進出に伴い、初婚と初産の年齢が上昇し、不妊治療を受ける夫婦の数が増加している。不妊治療は、治療が進むにつれて身体的、心理的、そしてスケジュールの面でも負担が大きくなっていき、仕事をしている女性が不妊治療を行ううえで、職場の理解が得られず、ハラスメントを受けることも少なくないと考えられる。しかし、現状では不妊治療中の女性におけるハラスメントに焦点を当てた研究は報告されていない。そこで、職場での不妊治療関連のハラスメントの現状とその要因を明らかにすることを目的に、不妊治療専門の医療機関（4 施設）の外来を受診した就労中の女性（1,103 人）にアンケート調査を実施した。調査項目は、不妊治療関連のハラスメント経験の有無、年齢、不妊期間、体外受精の回数、学歴、居住地、職場規模、雇用形態、職場への不妊治療の開示などの設問を含め、不妊治療関連のハラスメントの現状とその要因を抽出した。その結果、不妊治療開始後に 82 人（7.4%）が不妊治療関連のハラスメントを経験していた。多変量調整ロジスティック回帰分析の結果、体外受精の回数が多いこと、多変量調整オッズ比（95%信頼区間）は 1.06（1.01-1.10）であった。また、職場に不妊治療をしていることを伝えていること、多変量調整オッズ比は 1.80（1.03-3.15）であった。本研究により、不妊治療中の女性の 7.4%が不妊治療開始後に職場での不妊治療関連のハラスメントを経験しており、体外受精の回数が多いこと、職場に不妊治療をしていることを伝えていることがハラスメントに有意に関連していることが明らかとなった。